

校長室だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/maruyamadai/>

「夏休みに向けて」

校長 藤 至光

4月7日の始業式、入学式から今日までの間、皆さんが新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら健康に学校生活を送ってくれたことに感謝します。

校外行事は「延期」という判断をしましたが、体育大会を実施することができたのは、皆さんの健康管理のお陰です。これからも暑いが続いていきますが、引き続き熱中症の防止と感染症の感染防止に努めながら、新しい生活様式の中で安全に過ごして下さい。

さて、明日から夏休みに入ります。

夏休みは嬉しいですか？楽しみですか？と聞けば、多くの人は嬉しいと答えるのではないのでしょうか。それは、私も同じです。それでは、学校は楽しくなかったのか？と聞かれたらどうでしょう。

学校は楽しかったし、夏休みも楽しい。ただ、楽しいということの意味が少し違うのではないのでしょうか。それでは、学校と夏休みとは、どこが違うのでしょうか。

考えてみてください。

学校には時間割がありますが、夏休みには時間割はありません。ということは、夏休みには時間割から解放されるということです。学校の時間割に縛られない生活、それが夏休みの大きな特徴です。

そこでの問題は、夏休みには時間割がないのだから、自分で自分の時間割をつくる必要があるということです。学校の時間割は先生たちが作ったものですが、夏休みの時間割は自分で作るものです。ただ自分で作るのは面倒だから、テレビの時間に合わせるといのは困りものです。また、学校には昼休みがあったから、夏休みの時間割にも昼休みが必要ということで通常の25分ではなく2時間休みというのをつくってみてもいいでしょう。しかし、一日中休みという時間割では困ります。

とにかく、学校の時間割と違う自分の時間割を作ることが、夏休みの課題です。きみ達の「想像する力」と「やりとげる力」を高めるために、この夏休みを利用して、先を読む力の計画力、進んで取り組む力の主体性、あきらめない力の実行力、ルールや約束を守る力の規律性などを鍛えてみてください。

そして、自分で作った時間割ですから、それを守らなければなりません。それではもし守らないと誰が叱るのでしょうか？先生がいないのだから、おうちの人が叱ることが多いかもしれません。しかし、自分で作った時間割なのだから、自分で自分を叱るということも大切です。いや、叱るだけでなく、よく守ったときには、自分を褒めるということも必要でしょう。

このように、自分の行動を振り返って、自分で自分を叱ったり、自分を褒めたりするということは、自分の中に二人の自分がいるということです。さぼりたい自分と、さぼってはいけないという自分です。そういう二人の自分との戦いを葛藤といいます。

自分で自分を叱るというのは、別の言い方をすると心を鍛えるということです。自分で自分を叱る、それが人間として本当に成長することです。大人でも自分で自分を叱れる人は少ないものです。だから、夏休みは体を鍛えるとともに、心も鍛える。そんな夏休みにしてください。

8月27日に元気に会いましょう。

